



## 心房性機能性僧帽弁逆流症と僧帽弁輪のリモデリングに関する検討

2015年6月1日から2016年9月30日までの間に日本医科大学付属病院循環器内科で心房細動に対するカテーテルアブレーションまたは電気的除細動を受け、その前に経胸壁心エコー図検査および経食道心エコー図検査の両方を受けていた患者さん

### 研究協力をお願い

当科では「心房性機能性僧帽弁逆流症と僧帽弁輪のリモデリングに関する検討」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。心房細動をもつ患者さんには心房性機能性僧帽弁逆流という心臓弁膜症が生じることがあります。この研究は、2015年6月1日から2016年9月30日までの間に日本医科大学付属病院循環器内科で心房細動に対するカテーテルアブレーションまたは電気的除細動を受けた患者さんを対象に、心房性機能性僧帽弁逆流症と僧帽弁輪のリモデリングとの関連を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

### (1) 研究の概要について

研究課題名：心房性機能性僧帽弁逆流症と僧帽弁輪のリモデリングに関する検討

研究期間：研究実施許可日～2025年12月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 循環器内科 講師 時田 祐吉

### (2) 研究の意義、目的について

心房性機能性僧帽弁逆流症は、心房細動が原因で、心臓の中の左心房という部屋が拡大し（左房拡大）、それに伴い僧帽弁という弁の形態が変化する（僧帽弁輪のリモデリング）ことで弁に血液の逆流が生じる病気です。しかし左房拡大によってどのように弁の形態が変化するのか、またどのような変化が逆流症を発生させるのか、そのメカニズムは不明です。本研究の目的は心エコー図検査結果から僧帽弁輪の形態変化と心房拡大、逆流症の関係を明らかにすることです。本研究の結果から心房性機能性僧帽弁逆流症の起こりやすい患者さんの予測や、予防法、起こった場合の治療法を見出すことが期待されます。

### (3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2015年6月1日から2016年9月30日までに日本医科大学付属病院循環器内科にて、心房細動に対するカテーテルアブレーションまたは電気的除細動が行われ、その前に経胸壁心エコー図検査および経食道心エコー図検査の両方を受けていた患者さんの特徴、心エコー図検査所見を後ろ向きに（過去に行われた診療上のデータを個人を特定できない形で収集して）解析します。僧帽弁輪の形態に関する指標（僧帽弁の前後径など）と左房拡大、僧帽弁逆流の発生との関連について探索します。今回の研究では、心臓の機能低下がある患者さん、以前に心筋梗塞や心臓手術をされている患者さん、肥大型心筋症、器質性弁疾患、心膜疾患または先天性心疾患と診断されている患者さんは対象外とします。

この研究は患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：年齢、性別、過去の病気、心エコー図検査所見

### (4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

### (5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。



**(6) 問い合わせ等の連絡先**

日本医科大学付属病院 循環器内科 講師 時田 祐吉

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：27518

メールアドレス：yukichi@nms.ac.jp